

氷川神社  
社報 第二十八号

# 武蔵一宮



## 令和六年甲辰の年頭にあたり

令和六年甲辰の年頭にあたり、謹んで聖寿の万歳と御皇室の弥栄、国家の隆昌、そして皆様方の御多幸をお祈り申し上げます。

御創建から二、四九六年となる本年の初詣は好天に恵まれ、三が日あわせ二百万人の人出で賑わいました。

年間を通して大勢の参拝者を迎える中で、懸案の一つになっているのが参拝者休憩所やお手洗いの問題です。此の度、毎日興業株式会社様の創立五十周年の嘉節に当たり施設費用の一部奉納を頂き、社務所前に休憩所やお手洗いを含めた多目的施設を建設する事となりました。「氷川の



社ゆうすいてらす」と名付けられた本施設は、御祭神の水の恵みはもとより神道と水は切っても切れない関係にある事から、神社の出入り口で聖と俗を繋ぎ合う境界線の役割を目的としております。二月より工事を開始し、八月の例祭前には竣功を予定しております。完成まで皆様には御不便をお掛け致します。

## 御鎮座二千五百年に向けて



点灯式 修祓



点灯式

当社は第五代孝昭天皇の御代三年に御鎮座以来、悠久の年月を経て、来る令和十年に御鎮座二千五百年を迎える事となります。これを奉祝周知するため、有志の方の御奉納により、約五六〇灯の提灯を献灯し、十一月三十日に点灯式を行いました。

当社の献灯行事は、平成二十九年の明治天皇御親祭百五十年祭の奉祝に始まり、以後、上皇陛下の天皇御在位三十年奉祝、今上陛下御即位奉祝と重ねて参りました。

昨年には御鎮座祭の行われる五月九日に御創建二千五百年祭奉賛崇敬会の準備委員会が行われており、奉祝事業などについて御意見や御要望をお伺いし、会議を進めていく予定です。奉祝宮繕事業としては、すでに昨年、参道の入口である第一鳥居の改修工事を行い、五月二十三日に竣功祭を斎行致しました。来る嘉節に向け、境内を整備して参ります。

祭事曆

当社では毎日の日供祭以外にも年間約七十の祭典を行い、謹んで御皇室の弥栄と国家安泰、五穀豊穰と氏子崇敬者の繁栄を祈願しております。

- 十月 一日 月次祭
- 九日 抜穂神事
- 十五日 献詠祭 (兼題 林檎)
- 十七日 神嘗奉祝祭
- 二十一日 朔瓶祭
- 十一月 一日 月次祭
- 三日 明治祭
- 十五日 献詠祭 (兼題 秋の暮れ)
- 二十三日 新嘗祭
- 敬神講社大祭
- 三十日 大湯祭前齋
- 十二月 九日 大湯祭本祭 (十日市人出約三十万人)
- 十一日 大湯祭後齋
- 誓詔祭
- 饗膳式
- 十五日 献詠祭 (兼題 除夜祭)
- すす払い
- 古神札焼納祭
- 大祓式
- 三十一日 除夜祭

縁起物とは 破魔矢 鎗矢

縁起とは因縁生起の略で、本来は仏教用語です。これが神社や仏寺の創建・由来及び靈験伝説を称することとなり、更に文章或は絵画をも交えて表現したものを絵縁起・縁起絵巻と言います。なお、所謂縁起、吉凶の前兆を言い、縁起祝いや縁起直しの風習を生じ、神社で縁起を祝う品々(御縁起物)を班布するに至りました。(『神道辞典』より)

玄関



部屋



神棚



正月の縁起物に破魔矢(破魔弓)があります。これは古代には、宮廷行事として正月十七日に建礼門前で行われた『射礼』という弓射の名残ります。「はま」とは弓にて矢を射るの事をいい「浜」の字が使われますが、「はま」が破魔に通じる事から破魔弓・破魔矢の字があてられるようになったという説もあります。鎗矢は先に鎗が付いた矢で、射ると鎗の孔に風が入って響きを飛ばします。平安時代の源平合戦などでも戦鬨の合図として一番最初に放たれた矢で、「一番矢」から物事を始める際の縁起物となります。縁起物の祀り方に決まりはありません。神棚、床の間、玄関、リビングなどにお祀り下さい。

新嘗祭 奉納御礼

- 御米
- 野菜果物
- 島根氷川神社
- 阿泉秀典
- 島村功作
- はせがわいさお
- 関口達衛
- 水のフォルム

大湯祭 奉納御礼

- 百味膳
- 清酒
- 三峯神社
- 清水伸洋
- 秩父神社
- (株)中村写真館
- 七里敬神講社
- (株)電成社
- 埼玉県南部漁業組合
- (株)丸三屋
- 獵友会
- (株)和泉空調設備
- 魚志やう
- 大村庵
- (株)鯉平
- (有)春光社印刷
- 大和田氏子中
- (有)西一
- 原田喜平
- 吉田一也
- 野口スポーツ
- 鎌田滋之
- 蓮沼神明神社氏子中
- 大谷氷川神社氏子中

- 御米
- フルーツ
- 森田栄治
- サントリーホールディングス(株)
- 薄田守利
- サントリー(株)埼玉支社
- 星野昇保
- 海産物
- 平野貞祐
- 果物
- (有)やま重
- 阿泉秀典
- 菓子
- よね屋煎餅店

(敬称略、順不同)

(敬称略、順不同)

社頭往来①

大宮アルディージャ  
VENTUS必勝祈願

十月八日、大宮アルディージャ VENTUSが2023-24シーズンの必勝祈願を行いました。代表取締役社長の佐野秀彦様、フットボール本部長の原博実様、柳井里奈監督、乗松瑠華キャプテンはじめ選手・スタッフ一同が参加し、今シーズンの飛躍を祈願しました。



写真提供：大宮アルディージャ

氏子総代研修旅行

十月十一日から十三日まで氏子総代研修旅行を実施、二十四

名が参加致しました。本年は「世界遺産 熊野三山正式参拝と高野山、紀伊勝浦・南紀白浜を訪ねて」をテーマに熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社を正式参拝の他、青岸渡寺や金剛峯寺を参詣、高嶋(円月島)などを見学致しました。



特別紙朱印「満月と納曾利」

十月十四日より秋の特別紙朱印「満月と納曾利」の授与を開始、十月二十九日に終了致しました。



雅楽演奏会の落蹲

埼玉県茶道協会秋の茶会

十月二十二日、勅使館及び呉竹荘にて埼玉県茶道協会の秋の茶会が開催され、同会顧問清水志摩子様はじめ、埼玉県芸術文化祭実行委員会担当者様他約三百名の参加を頂きました。

茶席 大日本茶道学会

飯嶋怜仙

裏千家 寺嶋宗知

表千家 清水宗水

鳥居奉納奉告祭

十月二十三日、末社の稲荷神社に鳥居の奉納を頂いた株式会社柳沢ガーデン様御参列のもと、奉納奉告祭を行いました。



社頭往来②

戦艦武蔵顕彰祭

十月二十四日、戦艦武蔵顕彰碑前にて、戦艦武蔵顕彰会会長の三原宏治様はじめ会員三十四名参列のもと戦艦武蔵顕彰祭を行いました。祭典中に豊栄の舞、甲飛喇叭隊のラップ演奏が行われ、祭典後は歴史学者の久野潤氏により真珠湾攻撃に加わった旗艦赤城の長谷川喜一艦長(さいたま市緑区中尾出身)や南雲司令長官について講演が行われました。



観月雅楽演奏会

十月二十五日、舞殿にて観月雅楽演奏会を開催致しました。

演奏曲目

- ・神楽 豊栄の舞、浦安の舞
- ・管弦 豊越調、音取
- 酒胡子、胡飲酒破

舞楽

蘭陵王  
落蹲(納曾利の一人舞)



武蔵菊花会奉納菊花展



十一月一日より十五日まで武蔵菊花会による第七十四回奉納菊花展が開催されました。楼門内外の廻廊や舞殿などに丹精込めて育てられた様々な菊、約四百鉢が展示されました。

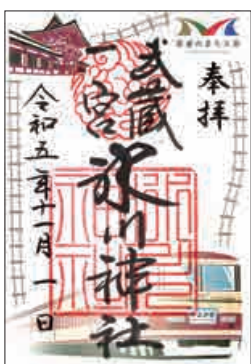
特別紙朱印「幸せへの道」

「川越縁めぐり」



十一月一日より画家のはせがわいさお氏デザインの秋の特別紙朱印「幸せへの道」の授与を開始、十二月七日に終了致しました。

また、JR主催「川越縁めぐり」の特別紙朱印も十一月一日より授与を開始、十二月八日に終了致しました。



大宮二十景入賞作品展示

十一月七日より十七日まで大宮区主催の「わたしの好きな大宮二十景」絵画コンクールの入

賞作品の廻廊展示を行いました。

こちらは大宮区内の小学校の夏休みの自由課題で募集し、応募された八百四十八作品の中から選考された二十四作品です。入賞作品はさいたま市のホームページで御覧頂けます。



七五三

七五三詣は本年も混雑を避けた分散傾向にありましたが、一万組に近い方がお参りされました。皆様の健やかなる成長をご祈念申し上げます。



社頭往来③

浦和実業学園中学校職場体験

十一月十五日から十七日まで職場体験として浦和実業学園中等部の生徒三名を受け入れました。境内清掃や御札御守りの授与、豊米の舞の練習などを行って頂きました。



敬神婦人会国旗小旗作り



十一月十六日、敬神婦人会の会員約六十名により国旗の小旗

作りが行われました。作成された二千本の小旗は一般財団法人日本文化興隆財団に送られ皇居での新年一般参賀等に活用されます。

無雙直傳英信流阿字会奉納演武

十一月十九日、正式参拝の後、無雙直傳英信流居合兵法阿字会井本忠昭阿司齋他会員による奉納演武が行われました。



大宮華道連盟献華展

十一月二十二日、二十三日、大宮華道連盟による献華展が開催され、楼門内の東西回廊に十七流派の先生方の作品、二十三杯が展示されました。

献華を頂いた方(敬称略)  
草月流 松野朱世、水口秀香

竹下尚峰



池坊明流 小澁恭園  
桂古流 細田好草

池坊 長島晶園  
小原流 別所睦翠  
春草流 西島春溪、栗原春彩

古流松藤会 岩波理豊  
正風流一光会 桐生一光

古流松濤会 見村理和  
桂古流・桂流

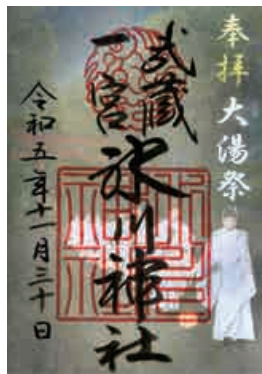
古流松東会 岩井蘭香  
日本古流 清水理秀  
遠州流 加藤一紀  
古流かたばみ会 守屋一陽

吉野御流 小原理晴  
前田嘉祥

池坊宝生流 高野玲光  
華風風花会 伊坂真苑

大湯祭新年縁起物授与開始

十一月三十日より大湯祭授与品、特別紙朱印「前齋ぜんさい」、「本祭の賑い」、令和六年縁起物の授与を開始致しました。



社頭往来 ④

神宮大麻・曆頒布始め奉告祭

十二月四日、社務所にて氏子総代の皆様にお集まり頂き、神宮大麻頒布式を執り行いました。



酒造組合祈願祭



十二月五日、境内の松尾神社前にて埼玉県酒造組合会長の(株)小山本家酒造代表取締役会長小山景市様をはじめ三社の酒造会社様参列のもと、酒造組合祈願祭を執り行いました。

すす払い

十二月十五日、献詠祭終了後に本殿や拝殿、楼門などのすす払いを行いました。



古神札焼納祭

十二月十五日、古神札の一部を前に古神札焼納祭を執り行いました。



武蔵菊花会表彰式

十二月十六日、社務所にて武蔵菊花会の表彰式が行われました。

令和五年水川神社宮司賞(敬称略)

- ・「彩胡花笛」 佐藤昭次
- ・「聖光白峰」 吉田勝美
- ・「南陽白妙」 茂呂尚佑
- ・「国華幸盛」 川上治栄
- ・「国華越山」 川鍋辰雄
- ・「精山春姫」 鈴木 旭
- ・「精山春姫」 籠島忠弘



五色百人一首埼玉県大会



十二月十七日、呉竹荘にてNPO法人子どもの夢TOS S埼玉主催の五色百人一首埼玉県大会が開催されました。参加者は県内各地よりの幼稚園児から小学生まで三十一名でした。

書元会廻廊展示

十二月三十一日より一月五日まで書元会による書初約三〇〇点の廻廊展示が行われました。

小学三年生から中学三年生までの会員の作品で「せかい」、「竹うま」、「春まつ心」、「自然の美」、「平和の光」、「夢の実現」、「文化の伝承」が兼題となりました。



## 氏子青年会並敬神婦人会 合同勉強会

十月七日、氏子青年会と敬神婦人会の合同勉強会を開催、あわせて六十六名の会員が参加致しました。民俗芸能論講師で玉川大学芸術学部の山崎敬子先生に「全国に浸透する須佐之男命への祈り〜蘇民将来と疫病祓い〜」と題し講演を頂きました。前段は氷川神社と御祭神についての講演、後段は『備後国風土記』に記載されている蘇民将来の説話や祇園信仰、天王信仰など疫病祓いを願う人々により須佐之男命は全国で信仰されていると講演を頂きました。山崎先生は当社の公式インスタグラムで連載している「氷川風土記」の文章を書かれております。

### 氷川神社について

- ・令和十年には二千五百年祭を迎える日本でも稀な神社である。
- ・明治天皇は東京遷都後、ここから新しい時代が始まるという事を氷川神社から宣言されて日本の近代が始まったという事は日本の近代史にとって大変重要である。
- ・須佐之男命を主祭神としている一の宮は氷川神社だけである。



### 御祭神について

- ・神紋八雲の中央の水草は、水が豊かでないと育たない**蓴菜**(じゆんさい)（諸説あり）で、須佐之男命が水の神であり、この地域が水を大切にしている事を証明している。
- また水と深いかわりがある須佐之男命が稲田姫命と結ばれる事は稲作を伝える重要な出来事である。
- ・須佐之男命は農耕の神、疫病を除ける神(茅の輪神話)、歌の神、木の神(植林神話)など生活に直結する神として信仰されてきた。

### 蘇民将来や御霊信仰、祇園祭、天王祭について

- ・八世紀にはすでに無病息災、蘇民将来と書かれたお守りが出土している。地方ごとに蘇民将来のお守りは異なり、蘇民祭というお祭りとして行われる事もある。茅の輪によるお守りは全国的に広がっている。
- ・仏教の牛頭天王と習合した須佐之男命は疫病祓いの神様として平安時代には定着し、祇園信仰が広まっていった。平安時代には崇りを恐れ御霊信仰も流行、これを防ぐため祇園祭が行われるきっかけとなる。
- ・天王祭という名前でも疫病祓いが行われるが、この天王は牛頭天王から来ている。祇園祭も天王祭もどちらも須佐之男命による疫病祓いである。
- ・全国各地でここまでひろく信仰されるのは須佐之男命への祈りの強さの顕れである。



敬神婦人は昭和37年に結成、氏子青年会は昭和41年に結成された団体で、氷川神社の諸祭事や護持運営に御協力を頂いております。





古流松藤会  
池坊  
草月流  
桂古流

豊花智峰  
岩波理智  
草谷尚竹  
小林華侑

桂古流  
正風流一光会

高橋典花  
桐生一光

十二月の奉納献葎

※十一月は献葎展と同一



古流松藤会  
池坊  
草月流  
桂古流

豊花智峰  
岩波理智  
草谷尚竹  
小林華侑

桂古流  
草月流  
正風流一光会  
春草流

高橋典花  
桐生一光  
栗原春彩

十月の奉納献葎

参道清掃奉仕御礼

参道の清掃活動を頂きました皆様の芳名を紹介し、謹んで御篤志に感謝申し上げます。  
(五十音順、敬称略)

- ・阿含宗埼玉道場
- ・大宮明るい社会づくりの会
- ・大宮北小学校
- ・株式会社シグマスタッフ
- ・如月会
- ・高鼻二丁目友の会
- ・氷川ほたるの会
- ・みずほ証券株式会社大宮支店
- ・武蔵コーポレーション株式会社
- ・明治安田生命大宮西営業所



大宮北小学校様全校生徒約300名での参道清掃



御親祭記念品  
横山大観 扇子



吉田初三郎 絵葉書



素焼き 盃

此の度、金鑽神社宮司金鑽俊樹様より次の氷川神社に関する品々の寄贈を頂きました。御篤志に感謝申し上げます。

正式参拝及び諸会議

(敬称略)

十月

- 四日 明治神宮崇敬会綾瀬支部婦人部
- 四日 埼玉県神社庁役員会
- 七日 氏子青年会並敬神婦人会合同勉強会
- 八日 大宮アルデイジー VENTUS
- 八日 武蔵菊花会菊作り研修会
- 八日 及展示会準備打ち合わせ
- 十日 南多摩神社総代会(東京)
- 十日 静岡銀行頭取八木稔
- 十三日 吉川市役所 氷川ほたるの会
- 十五日 日本国史学会
- 二十一日 責任役員会
- 二十四日 戦艦武蔵顕彰会
- 二十五日 観月雅楽演奏会
- 二十五日 交通安全対策会議

十一月

- 八日 神宮研修所
- 九日 武蔵野市古文書の会
- 十日 武蔵菊花会全体会議
- 十日 公益社団法人国民文化研究会
- 十四日 敬神婦人会役員会
- 十八日 香椎宮氏子総代会
- 十九日 無双直伝英信流居合兵法阿字会
- 十九日 はせがわいさお
- 二十三日 さいたま商工会議所青年部
- 三十日 氷川神社献灯会
- 十二月 新能会議
- 一日 職員研修会
- 二日 助勤説明会
- 三日 助勤説明会
- 三日 氷川ほたるの会
- 十六日 武蔵菊花会
- 十八日 兎田ワイナリー 深田和彦
- 十九日 (株)ノースコーポレーション 北康信
- 二十一日 氷川丸船長大内孝利
- 二十二日 立正佼成会大宮教会
- 二十二日 おおみやコミュニケーション 女性会
- 二十九日 武蔵野銀行

# 江戸幕府と氷川神社 見沼の大工事

江戸幕府が大宮周辺で行った治水事業の中に、「利根川の東遷と荒川の西遷」があります。家康公の命により始まった、この大土木工事は関東代官頭であった伊奈備前守忠次らにより行われました。

忠次の子、忠治は更に農業用水の確保のため、八丁(約870m)に及ぶ八丁堤を築き、見沼溜井を完成させます。見沼溜井が造成された際に、高鼻村の神領が水没してしまつたため、替地として新開村(現 桜区新開)や四ツ谷村(現 南区四ツ谷)などの一部が与えられました。見沼溜井の造成から約百年後には新田開発のため、井沢弥惣兵衛為永が八丁堤を切り見沼溜井を干拓した見沼田んぼが誕生、その農業用水確保のため、利根川から引いた水路が見沼代用水となりました。見沼田んぼでの稲作は今日でも行われており、秋には頭を垂れる稲穂の先に高層ビルを見る事が出来ます。

御沼、神沼とも呼ばれた見沼は形を変えても尚、この地に住む人々に変わらぬ恩恵をもたらしています。

(「さいたま市見沼たんぼの歴史」より一部抜粋)



現在の高層ビルと見沼たんぼ  
写真提供：さいたま観光国際協会



写真提供：  
さいたま市立博物館

武州足立郡新開村田畠屋敷検地水帳写

東角井家蔵

明暦三年(一六五七)

見沼溜井や新田開発に伴い潰地が出た場合は替地が与えられました。その後の検地帳で結果を知る事が出来ます。

# 分社紹介

全国に約二八〇社ある氷川神社の分社、その中から獅子舞の奉納がある分社を御紹介致します。



写真提供：さいたま市教育委員会

## (深作)氷川神社

鎮座地 さいたま市見沼区

獅子舞 深作二一五一

さいたま市指定無形民俗文化財。八月第三もしくは第四土曜日に奉納。



写真提供：さいたま市教育委員会

## (田島)氷川社

鎮座地 さいたま市桜区

獅子舞 田島四一二二

さいたま市指定無形民俗文化財。春祭(三月十五日)、夏祭(七月十四日)、例祭(十月六日)それぞれ近い日曜日に奉納。



写真提供：川口市教育委員会

## (江戸袋)氷川神社

鎮座地 川口市江戸袋七七六

獅子舞 川口市指定無形民俗文化財。春祈禱(四月第二日)

曜日)、例祭(十月第二日曜日)に奉納。

※獅子舞の奉納日はさいたま市、川口市の無形民俗文化財等の公開情報で詳細を御確認下さい。

# 見沼に残る弁天信仰

見沼のほとりに各地に弁天様が祀られています。さいたま市見沼区膝子の溜井弁財天、行田市利根大堰付近にある元もと塚つち樋ひ守もり弁財天、久喜市菖蒲町十六間堰のほとりにある星川弁天は見沼三弁天といわれています。膝子の溜井弁財天は見沼代用水を築いた幕府の役人、井沢弥惣兵衛為永が祀った一社で、他にも為永は水路沿岸要所に弁天社を祀り水路の安定と豊作を祈願したといわれています。

見沼七弁天といわれる弁天社もごさいますが、その内訳ははっきりとはわかっておりません。平成五年の三月に発行された『大宮の郷土史 第十五号(大宮郷土史研究会)』に会員の河田捷一氏が「見沼周辺の弁天社」と題しまとめた小論文が掲載されています。そちらには地元の方から聞いた話として「見沼の弁天社は向かい弁天といって対になっていること、弁天社のある所は見沼開発時の元抗の跡であること」などが記載されています。

また「見沼周辺の弁天社や宗像神社は、当社の他、膝子、新右エ門新田、天沼、土呂、沖郷、加田屋新田など十五社にのぼるが、向かい弁天説をとると見沼七弁天は数字上合致する」と私見を述べられています。

尚、新右エ門新田の宗像神社は埼玉県神社庁が発行した『埼玉の神社(北足立・見玉・南埼玉)』にも見沼七弁天の一つと記載されています。

弁財天は水の神として信仰され白蛇を使いますといわれています。昭和六十二年には「まんが日本昔ばなし」で「見沼弁天」という見沼の白蛇の財運にまつわるお話が放送されました。弁財天や宗像神社は水や農耕の神、芸術音楽の神、海の神、航海安全の神などさまざまな御利益で広く信仰を集めています。



溜井弁財天(さいたま市見沼区膝子)

# 弁天島に祀られる宗像神社

当社の境内社の一つである宗像神社の鎮座する場所は古くから弁天島と呼ばれていました。弁財天はもともとインドの河の神であり、音楽と弁財などを司る神でしたが、日本に来て宗像大社の御祭神であり、海の神である市杵島姫命と同一の神となりました。

現在の社殿は昭和五十一年に竣功したものです。旧社殿は明治二十九年に造営されたものですが、参道に遷され天満神社の社殿となっています。



昭和55年竣功奉告祭



昭和54年遷座祭



大正中ごろの宗像神社  
(古絵葉書集『氷川の杜を訪ねて』より)

埼玉県神社庁教化事業

「神主さんと神社を学ぼう」

埼玉県神社庁主催の教化事業「神主さんと神社を学ぼう」が三月二十四日に開催されます。

県内神社職が御案内や御説明を担当し、県内約二百社の御朱印展や御朱印帳作り、雅楽・神楽舞演奏、神話カレンダ―原画展など様々な企画を行います。クラブツーリズムと共催の講演は事前申し込みが必要となります。

また、境内では埼玉中央青年会議所会員による和傘の参道や盆栽・漫画ブースなど、参道では大宮グルメが集まった「氷川マルシェ」や「ミニ新幹線」も同時開催されます。皆様の御来社をお待ちしております。

日時 令和六年三月二十四日(日)  
午前九時半～午後四時半



県内神社御朱印展(本殿西側待合所)  
3/1~3/31(予定)



詳細は埼玉県神社庁ホームページを御確認願います。



第二十九号は四月十五日発行予定です



咲 守

春の限定お守り「咲守(初穂料1000円)」は3月16日から、特別紙朱印「招福降る氷川の太鼓橋(500円)」は2月3日から、「鎮花祭(500円)」は3月16日から授与を開始予定です。最新のお知らせはホームページ、SNSでお知らせ致します。



招福降る氷川の太鼓橋



鎮花祭



発行 令和6年1月15日 発行所 氷川神社社務所 印刷所 株式会社 秀飯舎  
写真協力 (深作)氷川神社 (田島)氷川社 (江戸袋)氷川神社 宮野信昭 中村写真館 工藤裕之  
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137 <https://musashiichinomiya-hikawa.or.jp>